

希望の種

ふくおか NPO ファイル

②

福岡市東区の大学4年生、平希井さん(22)の自宅玄関には、出荷前のピカピカの野菜が積み上がっていることも少なくありません。彼女の自宅は、堆肥からの畑作り・野菜の収穫から製品加工までを一手に行う、NPO法人循環生活研究所、通称「じゅんなまけん」の事務所を兼ねています。木のぬくもりを感じる平屋建てで、6人の常勤職員が働くデスクと円卓のミーティングスペースもあり、最初から住宅兼事務所として建てられたものです。

じゅんなまけんの理事長は希井さんの母親、由以子さん

循環生活研究所

事務所＝福岡市東区▽電話番号＝092(405)5217
メールアドレス＝jsk@jun-namaken.com

(49)、会長は祖母の波多野信子さん(74)。希井さん自身もボランティアスタツツとして4年ほど関わっており、大学院を修了したら将来はこれを仕事にするつもりという、生粋の環境NPO一家です。野菜作りのきっかけは、由以さんが父の介護中に安全な食を探し求めたところ、手に入れることが難しかったこと

と。実際に、国連食糧農業機関(FAO)のデータによると、2010年時点で主要国の農地面積あたり農薬使用量は中国、韓国に次いで日本が世界第3位であり、米国の約5倍となっています。身近な生活の困りごとと社会の抱える課題が実感でつながったと言えるでしょう。

三つのボランティア団体が集まって2004年に法人化したじゅんなまけん。畑で実践を繰り返して、生ゴミを堆肥に変える段ボールコンポストにたどり着きました。その堆肥を農家に配り、そこで採れた新鮮で安心・安全な野菜をじゅんなまけんが引き取って、地域の販売所や飲食店で売ります。2014年からは、ジヤムや漬物などの製品加工も行うようになり、地域で小さな6次産業化を推進しています。

命をつなぐ土づくり

段ボールコンポストは水分調整が簡単で初心者にも取り組みやすく、費用も少なくてすむのが特長。じゅんなまけんではコンポストの普及に取り組んでおり、その担い手が堆肥作りや野菜売買までのマ

段ボールコンポストで堆肥作りを体験する子どもたち



ネジメントを学んだアドバイザーです。05年から養成講座を始め、現在は全国に約200人。そのリーダー格となるトレーナーも認定しました。アドバイザーはそれぞれの地域でNPOなどを立ち上げながら堆肥づくりの講習会などを開き、年間の受講生は計8万人以上になるそうです。

主婦が生活圏と感ずる「半径2キロ以内」で暮らして根ざしたエコ活動。オーガニック菜園づくり、フリーマーケット出店など、それぞれが無理なく楽しんで継続できる形で提案される「土づくり・まちづくり・人づくり」は今、企業や行政とも連携し、海外からの研修も受け入れるなど活動の幅を広げています。(仮認定NPO法人「アカツキ」代表理事・永田賢介)

原則毎週月曜掲載